

広報 妻籠宿



公益財団法人妻籠を愛する会

令和2年8月20日発行

No.135



(尾又:おしゃごじさま)

下町に居する私は「おしゃごじさま」をよく知らなかったため、少し調べてみました。すると、たくさんの説があり、文字も「御左口」「御社宮司」「御三宮神」「御社子司」等々。結論は、研究者の中でも出ていないようです。しかし、その根源はかなり古く、人格神というよりも精霊であったり、何か特別なパワーやエネルギーのような物を崇めた証のようです。はるか昔からのパワースポットということでしょうか。おろそかにするとバチが当たる、そんな気がしました。

小笠原 美雪

(公財)妻籠を愛する会 新体制開始 〈新役員に聞く〉

副理事長 新井 新作

今、原稿用紙に向かって手が止まっております。文章を書くのは大変苦手で困り果てております。商売柄、パソコンに向かいCAD製図なら何とかできます。

この度、前任の見識と、力量豊かな諸先輩に比べ遙かに劣る私に財団の副理事長をやれ、ということになりました。何かの間違いだと思えます。いずれに致しましても、出来ることしか出来ません。

私事ながら、両親が昭和50年頃より25年間ほど民宿を営んでおりました。その意味では妻籠宿には観光を通じ、大変お世話になったと思っております。私自身もいい時代を過ごしたと思っております。その意味で今回は微力ではありますが恩返しです。

昨今は、大都市部の新型コロナウイルス蔓延で、妻籠宿を訪れる観光客もまばらです。あれだけ訪れていた外国人観光客もほとんどいないようです。財団の運営も大変厳しいと聞いております。そんな中、知見も見識もありませんが多少応援出来ればと思います。

常務理事 横山 純

妻籠に移り住み15年が過ぎました。地域の皆様に支えられながら本日までやってきました。

この度の編成で、常務理事を受けさせていただくこととなりました。組織の中で責任がある立場となり、今まで以上に励む所存です。皆様のご意見・ご協力をお願いします。

僕が大切にしていきたい事は、地域の声に耳を傾け、意見を出し合い、話し合いで物事を進めていくことです。汗を流す大変な作業が多くありますが、住民全体で協力し合い、行っていききたいです。住民組織である愛する会の精神をもとに活動し、活気のある妻籠にしていきたい。

課題は多くありますが、住民一丸となって取り組み、一つ一つ解決していきたいと思えます。

【評議員が6名新しくなりました！】

渡島 勝野 雅士

僕は小学校6年間、妻籠宿を通って妻籠小学校に通っていました。帰りはお腹が減ってお土産屋さんの試食用のせんべいを食べて帰っていたのを覚えています。

そして、あの頃と変わらない妻籠宿が残っているのは「何十年先を見通した明確な理念を持ち、その

ために必要なしっかりとしたルールを作り、チームみんなが同じ目標をもって取り組むこと」で、妻籠宿が昔と変わらず残っていることを例に、どんな事をするにもそのことが大事だと親が教えてくれたことがありました。

今、妻籠を愛する会がどのような理念をもっているか、これから色々お話を聞きながら僕にできることを考えていきたいと思っております。

恋野 藤原 啓喜

私が妻籠に戻って、まもなく4年目を迎えようとしています。このコロナ禍の影響が、近い将来の妻籠宿の姿を暗示するかの様にも思え、憂鬱な日々が続いています。

子どものころより「妻籠を愛する会」の存在は知っていましたが、その活動については殆ど意識することが有りませんでした。自分の子供が風俗行列に出させてもらうようになり、「妻籠を愛する会」が主催なのだとは知った程度。恥ずかしながら、評議員の役をいただき、初めて、「設立趣意書」「妻籠を愛する会定款」「組織図」等々を目にしました。事業報告をまともに読むのも勿論初めてでした。「妻籠を愛する会」の目的が、今まで見聞きしてきたより、高いところにある事に気付かされた気がします。妻籠が限界集落となる日が来ない事を祈りながら、これを機に、色々考えさせてもらいたいと思っています。

尾又 藤原 崇道

愛する会との関係は、私が所属している「妻籠愛友会」での活動においてご縁があり、妻籠地区の環境整備や風俗行列の参加などで関わってきた事から、お話をいただいたものと思っております。

今回、新たに評議員に選任されたからには、これまで先代から守り続けてきた保存事業に関する知識を深め、事業運営に際しての改善提案などができればと思っております。

折しも、新型コロナウイルスが世界中で猛威を振るい、観光客の減少やイベントなど通常の活動がほとんどできない状態であります。また、コロナ禍が今後も続くこととなれば、妻籠宿の宿泊・観光業など更なる打撃を受け、観光地としての存続にかかわるほどの局面を迎えかねません。その危機を乗り越え、安定的に発展していけるためにも、この時代に合った適正な法人運営がなされるよう、微力ながら取り組んでいきたいと思えます。どうぞよろしくお願い致します。

今年度から妻籠を愛する会の評議員に就任することになりました。経験の浅い身ではありますが、よろしく願いいたします。

さて、国選定「重要伝統的建造物群保存地区」は昭和50年の文化財保護法の改正により制度が発足し、妻籠宿は昭和51年9月に国に初めて選定された7地区の一つであります。重伝建地区は現在では120地区にも上っています。そんな数ある地区の中でも、妻籠宿は特別な存在と認識されています。

これは選定に至るまでの活動はもちろん、選定後においても議論を交わしながら、基本を守ってきた結果ではないかと思います。決して交通の便が良い訳ではないところに多くの人が来てくれていることから、他の重伝建地区とは違った魅力があるといえるのではないのでしょうか。

近年は多くの外国人観光客にも妻籠を訪れていただいていたのですが、今般のコロナ禍で状況が一変してしまい、先が見通せない状況になってしまいました。

そんな状況ではありますが、基本を重視したうえで、みんなで知恵を出し合い、全国的にも知名度が高い妻籠宿を活かしていく方策を探りながらこの苦境を乗り越えていけることを願うばかりです。

大妻籠 藤 原 修 司

家業は、宿泊・土建共に自営業という中、妻籠宿というブランドは不可欠です。保存の根底となる、売らない・貸さない・こわさないを守り続け、今日に至ります。もはや日本を超え、世界のTsumagoとなり、この状況を素晴らしいと感謝しています。

しかしながら、高齢化が急速に進む妻籠地区においてこの先、5年先をも考える中で、保存三原則を含む住民憲章には発展も必要と唱えます。

重要課題として、宿場内の空き家対策ではないでしょうか。今年はコロナウイルスの影響もありますが、南木曽町の知名度の武器は紛れもなく妻籠宿であり、5年先を見据えて発展は考えなくてはなりません。私としては、観光客に駐車場料金と同額の宿場内で使用できるクーポン券配布や、空き家を活用した集客性を持った店を募集するなど、これは雇用につながるはずです。雇用が生まれることで、南木曽町の人口減少の歯止めに期待できると考えております。

評議員になったからには、運営の舵役は上層部のみならず、組織全体で問題に立ち向かう方向性を探していきたいと思います。やるなら今でしょ！

昭和43年より続く「妻籠を愛する会」に携わることが出来ます事、大変うれしく思うと共に身の引き締まる思いでございます。

今や日本を代表する歴史情緒溢れる妻籠宿。諸先輩方が築き上げてきた保存活動のたまものであります。我々はその活動、思いを踏襲し、そして令和となった現在、時代の変化を取り入れながら更なる妻籠宿の発展に貢献し、世界の妻籠宿としていくことが使命だと考えています。

評議員任期期間、微力ではありますが精一杯尽力してまいりますので、皆様のご指導ご鞭撻のほどどうぞよろしくお願い致します。

(公財)妻籠を愛する会新役員名簿

〈理事会(12名) 任期：2年〉

理事長：藤原義則

副理事長：新井新作

常務理事：横山純

理事：今井啓文、松瀬博敏、松田智、今井好紀、原信之、平田伊知郎、亀山和美、宮下朋之、松下達也

〈評議員会(14名) 任期：4年〉

石垣八十志、下條廣一、木村和恵、勝野雅士、中坊健吾、藤原啓喜、小笠原美雪、下枝正敏、内藤米康、伊藤伸三、加藤洋子、藤原崇道、鈴木義幸、藤原修司

・監事：鈴木邦也、志水達也(任期：4年)

・参与：伊藤寿子

・顧問：林文二、林茂、小林俊彦

【委員会構成】 ※◎委員長、○副委員長

〈総務委員会：8名〉

◎今井啓文、○今井好紀、

伊藤伸三、加藤洋子、松田智、内藤米康、中坊健吾、藤原崇道

〈統制委員会：7名〉

◎宮下朋之、○下條廣一

松瀬博敏、石垣八十志、三浦良道、新井新作、磯村邦章

〈文化広報委員会：6名〉

◎原信之、○松下達也

木村和恵、小笠原美雪、勝野雅士、鈴木義幸

〈環境保全委員会：13名〉

◎平田伊知郎、○郷原二三男

藤原和年、亀山和美、下枝正敏、藤原啓喜、藤原修司、原 修己、伊藤龍太、窪美 靖、熊谷純一、原 拓也、吉村昌彦

妻籠町並み交流センター建築工事始まる！

— 旧妻籠小学校校舎と体育館が取り壊されます —

木造校舎の思い出

上町 松井 康子

昭和24年4月、私は母に手を引かれて妻籠小学校の門をくぐりました。石の階段を昇りきると、真正面に立派な創りの職員玄関が目に見え、飛び込んできました。その前庭には風情のある立木が何本か立ち、二宮尊徳先生の像が肅然と立っていました。子供心に何となく厳かな気持ちになった気がします。その左手に児童昇降口があり、そこから毎日教室へと向かっていました。

印象的だったのは、昇降口の隣にある体育館は、窓枠がない創りで、風通しが良くて、とても新鮮な感じでした。冬場はとても寒かった印象があります。

中学生になると、私たちはこの体育館で昼休み時間に給食もそこに男女入り混じってバスケットボールに興じました。今思うと、特別なルールもなく、ごく自然に二手に分かれて、全校生徒がそれぞれ遊ぶ中、ゲームに興じた時間が懐かしいです。

昭和31年、小学校の校舎が新しく建て替えられ、私たちは中学3年生になっていました。あと1年で卒業ということで、小学校の新しい校舎に入れてもらうことができました。その教室は2階の角部屋だったので、各教室の横の廊下の部分だけ広い教室でした。その広い教室で何となく気持ちが晴れ晴れとした気分を毎日過ごせたような気がします。今でもその教室を見るたびに、その頃の思いが蘇ります。その思い出の記憶の跡がなくなってしまうのは寂しいです。



〈校舎と体育館〉

旧妻籠小学校取壊しについて思う事

妻籠分館長 鈴木 竜 行

いよいよ、この9月から妻籠小学校の解体工事が開始されます。工事は今年度中に行われ、東校舎を除いた全ての建物が解体され更地になります。

そしていよいよ、その跡地には新しい妻籠分館が建設されることになります。新しい妻籠分館は、妻籠宿の景観にも配慮したオール木造のとても立派な建物になる予定です。

みなさんもすでにご存じのとおり、もう何年も前に読書小学校との統廃合により、私たちの母校はその長い歴史に幕を下ろしています。当時は大変な苦渋の決断を強いられたと聞いております。今回の解体に際しても、校舎を改修してそこを分館にし、思い出を残したらどうかという意見もあがったのですが、私たちは今回も統廃合の時と同様に終わらせることを決断しました。

しかし、これはあくまでもこれからの子どもたちのため、そして、これからもこの妻籠で生活して行く住民の皆さんの事を第一に考えた、とても前向きな決断だと考えています。ものすごく大袈裟な言い方をすれば、これからの妻籠宿に対して大きな愛情を注いでいる事は言うまでもありません。

この8月29日に、一日だけではありますが、校舎を開放します。私たちの母校に最後のお別れを言いに来てくれたら幸いです。

さようなら、そしてありがとう、妻籠小学校。



〈2016年：雨天のため体育館での地区運動会〉



名工土木安全の日 妻籠城址整備ボランティア

㈱名工土木 大 沢 ・ 原

この度、妻籠を愛する会からどのような経緯で毎年7月26日あたりに妻籠城址整備をするようになったのか教えていただきたい、とのお問い合わせがありました。ここで、整理する意味でも経緯を記しておこうと思います。

まず、名工土木安全の日の縁起からご説明したいと思います。7月26日は父である弊社名工土木先代社長大沢登の命日です。父は工事現場での不注意から左腕二の腕を骨折、それが元で麻酔事故にあい落命しました。このことは重大労働災害がその人の命を奪うのみならず、その一家の生き方までガラリと変えてしまうことを、私は実感しました。この反省に立ち、弊社で働く従業員が二度とそのような目に遭わないように、平成5年以来、7月26日を名工土木安全の日と定め、毎年安全講習、災害訓練、地域ボランティアを行ってまいりました。地域ボランティアは、私たち名工土木は地域に立脚し、南木曽町の皆様に支えられ地域の皆様のお役に立ててこそ、存在意義と価値があると考えております。また、それが先代、大沢登の遺志でもありました。

初めのころは、地元の方々から要望のあった場所の草刈りや道路整備作業などをしておりましたが、25年ほど前、元町議会議員の故勝野春喜さんから「城山の火まつりがあるので妻籠城址を整備してもらえると有難い」とアドバイスをいただきました。それからおよそ四半世紀に亘り妻籠城址整備を中心にボランティアを実施して参ったところです。妻籠宿保存40周年、50周年式典では、感謝状をいただき、ありがたく掲示しております。

地元に愛される企業として成長していきたいと思っておりますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



オオハンゴウソウ除去作業と 環境保全委員会活動について

環境保全委員長 平田 伊知郎

特定外来植物駆除作業に関わらせて頂いていますが、以前は知識も見分けもなく、景色の中にある黄色い花というだけの認識でした。ところが知ってみるとその強靱な繁殖力をもって在来種を駆逐し続け、最終一色に染める影響を出すというとても厄介な代物でした。いや、恐ろしい。主にオオキンケイギク（開花5月～7月）オオハンゴウソウ（7月～10月）セイタカアワダチソウ（9月～11月）いずれも北アメリカ産、かつて観賞用・蜜源として人の手によって持ち込まれたそうです。その当時は良かれとした事が後に害悪となる。人間は環境に対して余計なことばかりする生きものだとつくづく感じてしまいます。わずかでも罪滅ぼしができるなら、と思うのですが。

駆除作業に従事してみるとその大変さが沁みます。場所によっては茎が木のように堅く背丈もゆうに2mを超すオオハンゴウソウが群生しており、トンガで深く根を掘り起こすだけでも四苦八苦。その後大量に運んでの焼却処分など、手も目方もかかるそれはそれは重労働です。加えて今の組織規模では発生にとても追いついていかない現状があります。

去年は環境保全委員と妻籠宿で商売をなさっている若い世代、愛友会青年部の方達や和尚さんへの参加を呼びかけ輪を広げてみました。総勢20名以上集まり駆除量が大幅にあがりましたが、各々の仕事や生活の状況から日取りを合わせる難しさがネックとなり2度3度とは行えませんでした。問題としましては、定石の焼却まで行う方法では駆除範囲が限られてしまうのでその場での処分や拡大を防ぐことに重点を置いた方法など考えていく必要があると思います。大勢の参加と根気良く続けることを念頭に継続していければと思います。

今年は一石栃への紅葉の植え替えも大がかりに行われ秋に色づくのが楽しみです。いずれ自分がいなくなった将来に「綺麗だね～!」と言って貰える環境作りには特に力を入れていきたいと思います。皆さんのご協力含め、よろしくお願いします!



今年は春頃から熊の出没が増加しています。散歩の折などには鈴を携帯しましょう!



〈3月に移植したモミジ：しっかり根付きました!〉

【一石栃立場茶屋だより】

コロナウィルスの影響で4月24日から5月末日までやむなく閉鎖していましたが、6月より開放しています。

セルフサービスではありますが、一休みしていただいています。ハイカーの人数調査も再開しました。6月のハイカーは、770人、内外国人は133人です。前年比は20%、外国人は0.5%となっています。7月に入って豪雨が続き、茶屋の水源も荒れ、何度も復旧作用に足を運びました。外国人は雨の中も猛暑の中も平気で歩きますが、コロナウィルスのお陰で寂しい馬籠峠です。

真夏は暑くて歩くのに大変ですが、汗をかいても木立の中は爽やかですよ!

休んでいる間に囲炉裏の薪の準備作業に汗を流しました。



景観保持のため、宿場内での路上駐車はやめましょう!

宿 場 暦

- 5月11日：理事会（田原家）
 20日：統制委員会、広報134号発行
 21日：一石柅作業
 28日：評議員会（田原家）、
 （妻籠宿案内人の会総会：中止）
 29日：三役会、（ナショナルトラスト理事会：東京・
 理事長：中止）
 6月 3日：（木曽風景街道推進協議会総会：大桑村：
 中止）
 5日：理事会
 7日：（第40回南木曽町・妻籠健康マラソン
 大会：中止）
 11日：インバウンド推進協議会研修会
 （戸倉上山田・理事長）
 12日：評議員会
 13日：（日本ナショナルトラスト協会総会：東京・
 理事長：中止）
 14日：令和2年度第1回観光地点パラメータ調査
 16日：公民館妻籠分館建設委員会（理事長・常務）
 19日：三役会
 22日：統制委員会
 24日：広報部会
 7月 1日：一石柅水源整備作業（大雨による）
 8日：南木曽町に大雨特別警報発令（駐車場閉鎖）
 9日：一石柅水源整備作業（大雨による）
 20日：統制委員会
 23日：和智梵神社祭礼（～24日：神事のみ）
 25日：名工土木城山整備作業
 29日：広報部会
 30日：リニア説明会（南木曽会館）、
 インバウンド推進協議会理事会・
 総会（長野市・理事長）



〈馬籠峠頂上の看板が変わりました〉

統制委員会審議事項

- 5月20日
 ・群状択伐（関電：下り谷） 1件
 ・転落防止器具用ワイヤーロープ位置変更及び支柱
 移設（関電：尾又） 1件
 ・妻籠町並み交流センター建築とそれに伴う工事
 （町：分館・旧妻籠小学校） 1件
 ・道路拡幅（町：渡島蛇石） 1件
 ・町道路面深度調査（教委：恋野～第3P） 1件
 ・住居新築（恋野：中山道沿い） 保留
 ・その他：田島水路災害復旧工事（町：橋場：事後届） 1件
 6月22日
 ・住居改築（内装）（愛会：上町・まつや） 1件
 ・配電線設備の保安伐採
 （中電：一石～細野山～上在郷） 3件
 ・その他：新築住宅（恋野）、馬籠峠木橋
 7月20日
 ・雨樋修繕（下町） 1件
 ・配電線設備の保安伐採（中電：上在郷・橋場・大妻籠・
 馬籠峠頂上） 3件
 ・令和2年度重伝建事業：板葺屋根張替修理
 （教委：上嵯峨屋・厩） 1件
 ・NTT携帯電話基地局整備工事
 （NTTドコモ：吾妻橋） 1件
 ・群状択伐（関電：妻籠地区） 3件
 ・木製バリケードの設置（森林管理署：馬籠峠滝上） 1件
 ・その他：新築住宅（恋野）



新型コロナウイルス拡大防止対策として4月24日
 から5月17日まですべての駐車場を閉鎖しました。

発行：公益財団法人妻籠を愛する会
 〒399-5302 長野県木曽郡南木曽町吾妻2159-2
 TEL:0264-57-3513 (FAX兼用)

桜井家開放について

下町区長 原 信 之

妻籠宿の下町地区には2軒並んで空き家がありました。向かって右側が旧桜井家、左側が旧田原家でした。旧桜井家は床が抜け、瓦も落ちそうになり廃墟と化していましたので、観光地として景観が悪く、また通行人も多いことから安全面に不安もありました。

長い間手つかずだったその建物が、空き家対策の一環で建て替えの話をいただき、そしてあれよあれよと今年の春、完成を迎えることができました。

その建物はというと、以前は2階建てでしたが、平屋となり、木のぬくもりと土間はたたきで、とても落ち着いた素敵な無料休憩所に生まれ変わることができました。その奥には裏庭があり、そこには芝生を少し植えてあります。生えそろうにはまだまだ時間がかかりそうですが楽しみです。

管理は、私たち下町地区で受けることになりました。毎日朝夕の開閉から掃除まで、地区の有志5人で行っています。

今は新型コロナの影響で、観光客は少なく、イベントもほとんどなくなってしまいましたが、この先たくさんの観光客の休憩所として、また地元住民の憩いの場所として、そしてお祭りやイベントなどでも使われることと思います。そんな日常が早く戻って来てくれることをただただ願うばかりです。



〈隣の田原家で開催された下町サロンの様子〉

